

2020年11月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、前回、前々回の「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、経済活動が徐々に再開するもとの、持ち直しつつある」との判断を維持しました。
- 需要項目ごとの判断も、変更はありません。個人消費、観光は徐々に持ち直しています。また、公共投資は、高水準となっている一方、住宅投資は、低水準で推移しています。
- 雇用や金融面についても、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、10月、2か月振りに前年を上回りました。衣料品の販売が引き続き低調であるものの、日用品、食料品は、増勢は鈍化しつつも堅調を維持しています。また、家電販売は、エアコンが高単価商品を中心に引き続き好調に推移するなど、堅調な動きとなっています。
- 10月の新車登録台数は、軽自動車、除く軽、合計とも、前年を上回りました。合計は、昨年9月以降、13か月振りのプラスです。自動車ディーラーの店頭では、次第に客足が戻ってきており、新車投入や販売促進策の効果もあって、販売地合いは徐々に持ち直しています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、10月、感染症の影響が引き続きみられるもとの、全ての空港で前年を大きく下回

り、全体でも前年を大きく下回りました。9か月連続の前年割れです。国内旅行需要の緩やかな回復を受け、一頃に比べれば、前年比減少幅は縮小してきています。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、10月は8か月連続で定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。

- ホテル・旅館宿泊客数は、10月、地区によって差はありますが、全体ではほぼ前年並みまで回復しました。GoToトラベル事業等の効果から、道内客・道外客とも持ち直しの動きがみられました。旭川市内のホテル客室稼働率も、10月、前年を下回りましたが、5月を底に、徐々に持ち直しています。
- 各地観光施設の入込みは、10月、ウェイトの大きい旭山動物園、層雲峡地区、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーとも前年を下回ったことから、合計でも前年を下回りました。ただ、いずれの施設も、一頃に比べれば、入込客数は徐々に回復しており、前年比減少幅は縮小しています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、10月、宗谷、オホーツクが前年を上回りましたが、上川が前年を大きく下回ったことから、全体でも前年を幾分下回りました。2020年4月以降、10月までの累計では、宗谷、オホーツクが前年を大きく上回ったほか、上川も前年を上回ったことから、全体でも前年を上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、9月、持家が前年を幾分上回ったほか、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも前年を幾分上回りました。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、9月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を下回りました。旭川は引き続き1倍を下回ったものの、稚内、北見、網走が1倍超えとなったことから、全体では3か月連続の1倍超えとなりました。新規求人数は、9月、網走で前年を上回ったものの、旭川、稚内、北見で前年を下回り、この結果、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも、12か月連続で前年を下回りました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、10月、前年を上回りました。10月まで20か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上では、感染症の帰趨とその影響が最大のポイントと考えられます。とくに、①観光、消費が感染症の動向を受けて、これまでの持ち直しの動きがどのように変化していくかを、注意深く見て参りたいと思います。また、②雇用、所得、企業収益や設備投資計画にどのような影響が生じるのか、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地の建設業者がこれまでどおり受注を続けられるかどうか、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上